

## ボランティアツアーで恩返し

インテック計和会新潟支部では、東日本大震災で被害を受けた東北地方の被災者の方々に対して、少しでもお役に立てれば…との思いから、昨年11月5日、被災地ボランティアツアー(日帰り)を企画し、支部長である所長をはじめ22名が参加しました。

早朝4時30分に新潟を出発し、約4時間をかけて今回の目的地である宮城県山元町に到着しました。

道中、福島県、宮城県へと移動するにつれ、次第に地震・津波の悲惨な爪痕を目の当たりにしました。

津波により流され、粗大ごみとなり無造作に積まれたいくつもの車の山、地震の影響により液状化した高速道路、本来は収穫の時期を終え、黄金色に輝いているはずが一面真っ黒な汚泥で覆い尽くされ、土割れている田畑…。それは震災直後からテレビで見ていたそれよりも、現実味を帯びた悲しい光景でした。

今回のボランティアでは「新潟恩返し隊」の方に添乗していただきました。「新潟恩返し隊」とは、新潟中越地震や中越沖地震など新潟で発生した震災時に全国からいただいたご支援に対し、少しでも恩返しをしたいという主旨か



ら発足した民間の団体です。

私たちは支援センターのある宮城県山元町役場

に到着し、津波で被害を受けたいちご農園で不燃物や雑草、小木を取り除く作業を行うこととなりました。宮城県山元町は当社とのご縁もあり、支部長の新潟センター村上所長も幾度となく訪問させていただいた役場とのことでした。

作業中は、土の中からビデオテープや写真など津波で流されてきたであろう物が次々として出てきて、「この持ち主はどんな人だろう、ちゃんと生きておられるのだろうか」と考えると泣きそうになり、また気を取り直して作業に戻ることを何度も繰り返しました。

作業終了後、農園の老夫婦から「俺たちはなんも恩返しできねえけども、また来てくんなせえ」と涙ながらにいただいた感謝の言葉は一生忘れません。

平成24年度も、作業させていただいたこのいちご農園でのいちご狩りを企画し、元気になった老夫婦のお顔を再び見に行きたい、できれば毎年恒例の行事にしたいと考えています。

復興を成し遂げるには今後予想を超えた長い時間を要することになると思います。私たちは、今回の経験を糧に大震災のことを風化させず私たちのできる範囲で少しでも復興に貢献できればと思っています。



## マナーキッズ® テニスにコーチを派遣

2011年6月5日(日)に、テニスを通じて礼儀を学ぶ「マナーキッズテニス教室」が高岡市立木津小学校で開催されました。

マナーキッズテニスとは、ミニコートで、ミニラケットとスポンジボールを用いてテニスを指導する中で、小笠原流礼法総師範という礼儀作法のプロから、礼儀作法も子供たちに教えるというものです。

また、保護者にも「躰の意識を強く持ってもらうこそ効果がある」という考えに基づき、子供たちだけではなく保護者対象の小笠原流礼法教室を開くのも特徴になっています。

この教室は、文部科学省などの後援、三菱東京UFJ銀行、三菱商事、ソニー生命、ヨネックスなどの協賛を得て、全国44都道府県で開催され約7万5千人が参加しているものです。

富山県においては、今までスポット開催されてきましたが、2011年は高岡市教育委員会のサポートを得て、富山県テニス協会とともにインテックテニス部からコーチ3名をボランティア派遣し開催されました。



保護者に講義する  
小笠原流礼法 鈴木万亀子 総師範



「挨拶が気持ちよいことを子どもたちとテニスを通して共感できた!」 (柴 潤一さん 行政システム開発部)

「テニスという楽しい活動をしながらなので、子供達は元気に大きな声で受け答えしてくれ、私も楽しめました。」 (佐野 友紀さん 北陸地区本部産業システム部)

「スタッフとしての参加でしたが、活動内容や子供達から学ぶべき点が多くあり、また、参加させていただきます。」 (野崎 祐司さん 行政システム開発部)

## ETロボコン2011運営で感謝状

北陸地区本部の高木繁則さん、干場健さんと田中国見さんは、社団法人組み込みシステム技術協会・ETロボコン実行委員会から、ETソフトウェアデザインロボットコンテスト(愛称ETロボコン)の活動に対して感謝状をいただきました。

ETロボコンの、ETはEmbedded Technology(組み込みシステム技術)を意味しています。同一のハードウェア(LEGO Mindstorms™)に、UML(Unified Modeling Language)等で分析・設計したソフトウェアを搭載し、指定されたコースを自律走行することを競うコンテストです。組み込みシステム技術は、産業用ロボットなど、日本の製造業の国際競争力にはなくてはならない重要なものです。2002年UMLロボットコンテストとして始まり、2005年よりETロボコンと名称を変え、2011年で通算9回目の開催となります。



左から、干場 健さん(プロダクトシステム部)、高木 繁則さん(北陸品質保証部)、田中 国見さん(ソフトウェアセンター)

インテックでは、北陸地区本部に、古くから組み込みシステム技術関係の部門を設け、人材の育成とお客さまニーズに対応した開発を行ってきています。今回、感謝状をいただいたメンバーは、2010年からETロボコンの技術教育や地区大会開催の準備、運営、地域での普及活動を実施しています。

## サービス品質の向上が顧客ロイヤルティに結びつくことを明らかに ～コンサルティング事業部が日本消費者行動研究学会で発表～

後藤光治さん(コンサルティング事業部)は、2011年11月5日(土)～6日(日)、関西大学(高槻ミュージックキャンパス)で開催された日本消費者行動研究学会「第43回消費者行動研究コンファレンス」で「ITコンサルティングのサービス品質と顧客関係性の維持・形成に関する研究:サービス・マーケティングの視点から」と題した発表を行いました。内容は、コンサルティング事業部のサービス財であるITコンサルティングを対象に、インターネット調査を活用した質問票調査を実施し、サービス品質の向上が顧客満足・ロイヤルティならびに継続的な購買意欲の向上に繋がることの因果関係について、統計的に仮説検証した研究です。

サービス品質と顧客関係性に関する従来の研究は、飲食業界やホテル業界など、従業員とお客さまが1対1でのサービス(B2Cサービス)において盛んに行われていましたが、SI業界のITコンサルティングなど、組織対組織(プロジェクト対プロジェクト)でのB2Bサービスにおける研究はほとんど例がない画期的なものです。また、仮説検証は、インターネットで収集したデータを共分散構造分析という統計手法で実証検証しました。

発表最後の質問時間では、サービス品質とサービスコストの関係や、サービス品質の計測方法などの活発な質疑応答があり、一定の評価をいただきました。

## インテック

## 英会話夕食会でグローバル人材をみよせ!

首都圏本部 製造事業部ESシステム部は、グローバルに活躍される電子・半導体業界のお客さまへのサービスを担当しています(ESはElectronics & Semiconductorの略)。そのため、お客さまの海外拠点への出張や、お客さまとの英語でのメールや設計書作成、海外との電話会議やオフィスでの外国人エンジニアとの会話など、英語を使ったコミュニケーションが普段から多い部門です。そこでESシステム部では、より良いサービスを目指し、「英会話夕食会」を実施しています。それを、「ES'sESS(ES system's English Speaking Society)」と呼んでいます。

## 「月に1度、本格外国料理レストランで楽しく英会話夕食会!」

これがES'sESSのコンセプトです。急に仕事で英語を使うことになったらどうしよう、英会話は興味があるけど出来るのかどうかとても不安、英会話学校に行きたいけども出費がかさむ...そんな悩みに応えようと企画しました。これまでに東京で14回、大阪でも6回開催しました。ニューヨークスタイルステーキハウスやスペイン料理、韓国料理など、外国料理レストランで異国の雰囲気味わいながら英会話を楽しんでいます。



東京のマクニールさんと韓国料理レストランの前で。

## 「2つのルール」でとても簡単!ネイティブゲスト講師も参加

ES'sESSでは、参加資格も、難しいテキストも何もありません。たった2つのルールさえ知っていれば、どなたでも参

加することができます。

- ① 50%以上、英語で話してみよう!
- ② 誰かの日本語はみんなて訳してみよう!

このルールさえ守ればよいので、「とりあえず話してみよう」と気軽な気持ちで参加できます。さらにES'sESSには、ゲスト講師として、ボランティアでネイティブスピーカーの先生をお招きしています。東京ではITHDグローバルリーダー研修講師でもあったマクニールさん。大阪ではInterCall社のクリスさん。ゲスト講師が会話に参加し、私たちの英語や日本語を必要に応じて適語に直してくれます。「あ、そういう言い方で良いのだ」という発見が続き自信がつかずし、ユーモアたっぷりに英語でジョークを教えてくださいました。また日本以外の海外経験が豊富なので、その国の様子、マナーや文化の日本との違いなどについても英語で興味深くお話していただけます。毎回、お酒が進むにつれ、ますます英語比率が高まって楽しく盛り上がっていきます。

## 広がるES'sESSの輪

ES'sESSは、最初はESシステム部だけの活動でしたが、参加した人たちが声を掛け合って、今や他の部門や、ITHD各社からも大勢参加するようになりました。

参加者からは「英語力に自信のない私はとても不安でした。しかし、皆さんが私の拙い英語を理解してくれようとしてくださっていてとても話しやすかったです。」「これをきっかけに、頑張って英語を復習し、思い出したいです。」などの声が聞こえています。これからもES'sESSを、グローバル人材育成への第一歩となるよう、たくさんの方々に盛り上げて行きたいと思っています。



大阪のクリスさんと

## インテック

## インテック システムズ バンコク設立

インテックは、タイ王国に「インテック システムズ バンコク(以下 ISB)」を設立し、成長著しいASEAN市場で、クラウドサービス、BPOサービス、ITサポートなどを提供してまいります。

インテックは、既に中国・武漢と上海に海外子会社を設け、オフショア開発や現地でのSIサービスを提供しています。今回設立したISBは、日本企業も製造業を中心に多数進出している、タイ王国バンコクに設立し、成長著しいASEAN市場をターゲットに営業を展開します。

2012年2月24日(金)に現地オフィスにて、開所式を行いました。開所式には、インテック社長の金岡をはじめ、ISBの役員および業務提携関係にあるデリバリー社社長

阪口氏、デリバリータイ社社長 下前原氏、ならびに両社の親会社であるメディアシーク社の社長 西尾氏などが出席されました。

開所式では、仏教国らしく僧侶9人による読経が行われ、会社の発展を祈念しました。



後列左からISB 川浦取締役、ISB 中社長、デリバリー 阪口社長、インテック 金岡社長、ISB 平野代表取締役、メディアシーク 西尾社長、右端デリバリータイ 下前原社長



タイでは「9」の読み方が「発展」を意味し縁起が良いため、開所式などおめでたい席では僧侶9名でお経を唱える慣習があります

## ISBの概要について

社名	INTEC SYSTEMS BANGKOK CO.,LTD. (インテック システムズ バンコク)
所在地	タイ王国バンコク
住所	999/9 The Offices at CentralWorld 25Fl.,Room No. ML2503, Rama1Rd., Patumwam, Bangkok 10330
事業内容	①クラウドサービス インテックおよびグループ会社のクラウドサービスのローカライズおよび導入・保守 ②BPOサービス 現地滞在の日本人によるヘルプデスク、コールセンターなどのBPO業務 ③ITサポートサービス 現地日系企業向けのITサポートサービス ④通信サービス企画 ASEAN諸国で提供する通信サービスやコンテンツビジネスの事業化企画
設立日	2012年3月1日 同日から営業開始
資本金・株主	資本金：2000万バーツ(5千万円相当) 株主：インテックグループ 100%
役員構成	代表取締役 平野 尚也 (インテック 常務取締役 首都圏本部長) 取締役社長 中 智弘 (インテック 海外事業部ASEANチームリーダー) 取締役 川浦 正博 (インテック 取締役海外事業部長) ※平野および川浦は、非常勤。

## ISB社長の略歴とコメント

なか ともひろ  
中 智弘

1990年 インテック入社  
2008年 インテック上海 総経理  
2011年 海外事業部ASEANチームリーダー  
入社以来当社の海外拠点での業務経験が多く、米国、香港、上海拠点での営業、マネージメント経験がある。



インテックのお客さまの多くがタイに進出しておいでです。これまでインテックは、現地の対応が十分にはできませんでしたが、今後は強力にご支援させていただきます。また、現地の安価な労働力を活用したBPOサービスにおいてもお客さまに新たな価値をご提供できると確信しています。どうぞご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## インテック

## 北陸のデータセンターに熱い視線

昨年の震災以降、首都圏、中部、関西のお客さまで事業継続(BCP)やディザスタリカバリー(DR)を検討され、北陸のデータセンター(DC)に対する引合いや見学が続いています。

インテックでは、首都圏・富山・大阪のDCを広域ネットワークで結び、クラウドサービスとしてIaaSやPaaS、各種ソリューションサービスを高いレベルで均一化し、場所に関係なくサービスを提供する広域データセンター(VDC)サービスを提供しています。お客さまからは災害が少ない富山のDCでVDCサービス基盤を利用してBCPやDRを容易に実現できることを評価いただいております。具体的な検討や受注が増えています。

北陸電力と共同で設立したパワー・アンド・IT(PIT)では昨年8月より2次工事に着手し、今年1月31日に竣工しました。これにより営業開始時点(4室・床面積約900㎡)に比べて約2倍のサーバ設置スペース(合計8室・床面積1700㎡)の提供が可能となりました。当社はPITで大量印刷、封入封緘、郵送までを受け持つデータプロセッシングサービスも提供しています。

万葉スクエアはデータセンターとセキュアな開発室を併せ持ち、開発から保守・運用まで一貫したサービスを提供可能な拠点です。ハウジングとケーシングで利用するサーバ室とお客さまの要望に合わせて工事するコロケーション室で幅広いお客さまへの対応が可能です。また、北陸ではIBMのPowerSystems(IBMi)に特化したASクラウドサービス、簡易遠隔バックアップサービスなどの独自サービスも提供しています。



インテック万葉スクエア



パワー・アンド・IT

なお、最近の事例としては、次のものがあります。

- ①首都圏のお客さまが基幹システムを対象に当社クラウドサービスを利用し、リアル連携によるBCPの実現
- ②石川県のお客さまがBCP対策でハウジングサービスを利用
- ③北陸地域の中小規模のお客さまが重要データを安全なDCで保管するインターネット回線を利用した遠隔バックアップサービスの利用
- ④首都圏のお客さまが重要なシステムを限定してDRを実現

万葉スクエアとPITの見学やお問い合わせは、お客さまの各営業窓口または北陸地区本部北陸営業部までご連絡ください。

パワー・アンド・ITの  
免震装置

二期工事で増設されたコロケーションルーム(パワー・アンド・IT)

お問い合わせ先：株式会社インテック 北陸営業部 TEL:076-444-8020

## インテック

## 江崎教授を招き「クラウドのインパクト」を聴く

インテックは2011年12月21日に東京大学の江崎浩教授をお招きし、「21世紀型の社会基盤と企業インフラへの変革—クラウドシステムのインパクト—」と題した講演会を東京本社(江東区)で開催しました。

江崎教授は我が国のインターネット業界の第一人者であり、現在もWIDEプロジェクト代表、東大グリーンICTプロジェクト代表、IPv4枯渇タスクフォース代表などを務めておられます。また、江崎教授には、インテック・ネットコア設立時に同社顧問にご就任いただき、現在も先端技術研究所と共同研究を実施するなど、インテックとも長いご縁をいただいております。

講演では、東日本大震災をきっかけとした企業インフラ

の考え方の変化について、東大での取り組みを例にご紹介いただきました。特に、省電力やコスト削減のためだけではなく、生産性の向上や新ビジネスの創出、また、そのための積極投資によりグリーン化を目指すべきなど、参加した250名の役員および社員は、有意義かつ示唆に富んだお話を伺うことができました。



講演される江崎教授

受講者で満席の  
3Fコミュニティホール

## インテック

事業継続に関するIT対策は、データセンターなどの段階的導入が重要  
～コンサルティング事業部が「AJSセミナー2011」で基調講演～

コンサルティング事業部 黛文彦 事業部長は、2011年11月25日(金)に開催されたAJS株式会社主催の「AJSセミナー2011」で基調講演を行いました。

「AJSセミナー」は、ITホールディングスグループのひとつであるAJS株式会社(以下、AJS)が、最新の技術動向やAJSが行っている各種の取組みなどをお客さまにご紹介する目的で毎年開催しているセミナーです。今回は、学士会館(東京、神保町)を会場に、AJSのお客さまである旭化成株式会社および旭化成グループ各社の情報システム部門を中心として11社41名が参加されました。

インテックからの基調講演の演題は「ITトレンドの変遷と大震災で検証された戦略的テクノロジー」でした。講演の内容の一つ目は、5年間におけるITトレンドの推移を「仮想化」「インフラ集約」「事業継続と災害復旧」など5つに整理した後、今後10年間で考えられるITと経済の変革を支えるIT動向について「コンテキストアウェアコンピューティング」「ソーシャルコンピューティング」など4つ

のキーワードで紹介しました。また、内容の二つ目は、東日本大震災において実際に活用された情報技術やサービスを再確認し、今後、TCO(総保有コスト)の観点から、企業価値の向上に不可欠であるBCP(事業継続計画)/BCM(事業継続マネジメント)のIT対策においては、すべてをビッグバン的に導入するのではなく、ソーシャルメディア等のクラウドサービスや既存サービスであるバックアップ/DR、データセンターなどの中から「お客さまの実情にあわせて導入できるものから段階的に展開することが重要」との説明をいたしました。

インテックからの基調講演のほかには、ITインフラならびにシステムの信頼性・品質に関するAJSの取り組み、そして、AJSのお客さまである旭化成ケミカルズ株式会社さまより「情報システム部門のあり方」についての講演がありました。いずれのセッションも活発な質疑応答が行われ、お客さまが直面する問題意識を参加者全員で共有することができました。